

4. 幕臣

徳川昭武の随員としてパリへ

慶応2年(1866)慶喜の将軍就任に伴い、栄一は不本意ながら幕臣となります。幕府の行末を悲観し、浪人となる決意を固めた時、慶喜の弟・昭武の欧州派遣の随行を命じられました。

昭武は慶喜の名代としてパリ万博に出席後、欧州各国を訪問し、その後は将来の指導者となるべく長期留学をする予定でした。栄一はその間の庶務会計役として随行、5~7年間の滞欧予定でしたが、幕府が倒れ、約1年半で帰国します。

短期間でしたが、西洋の科学技術に触れ、「合本主義」(公益追求のため人材と資本を集めて事業を進めるという考え方)を学ぶなど、後の活動に与えた影響は小さくありませんでした。



パリ万博会場「Vue officielle a vol d'oiseau de l'exposition universelle de 1867」(LOC)